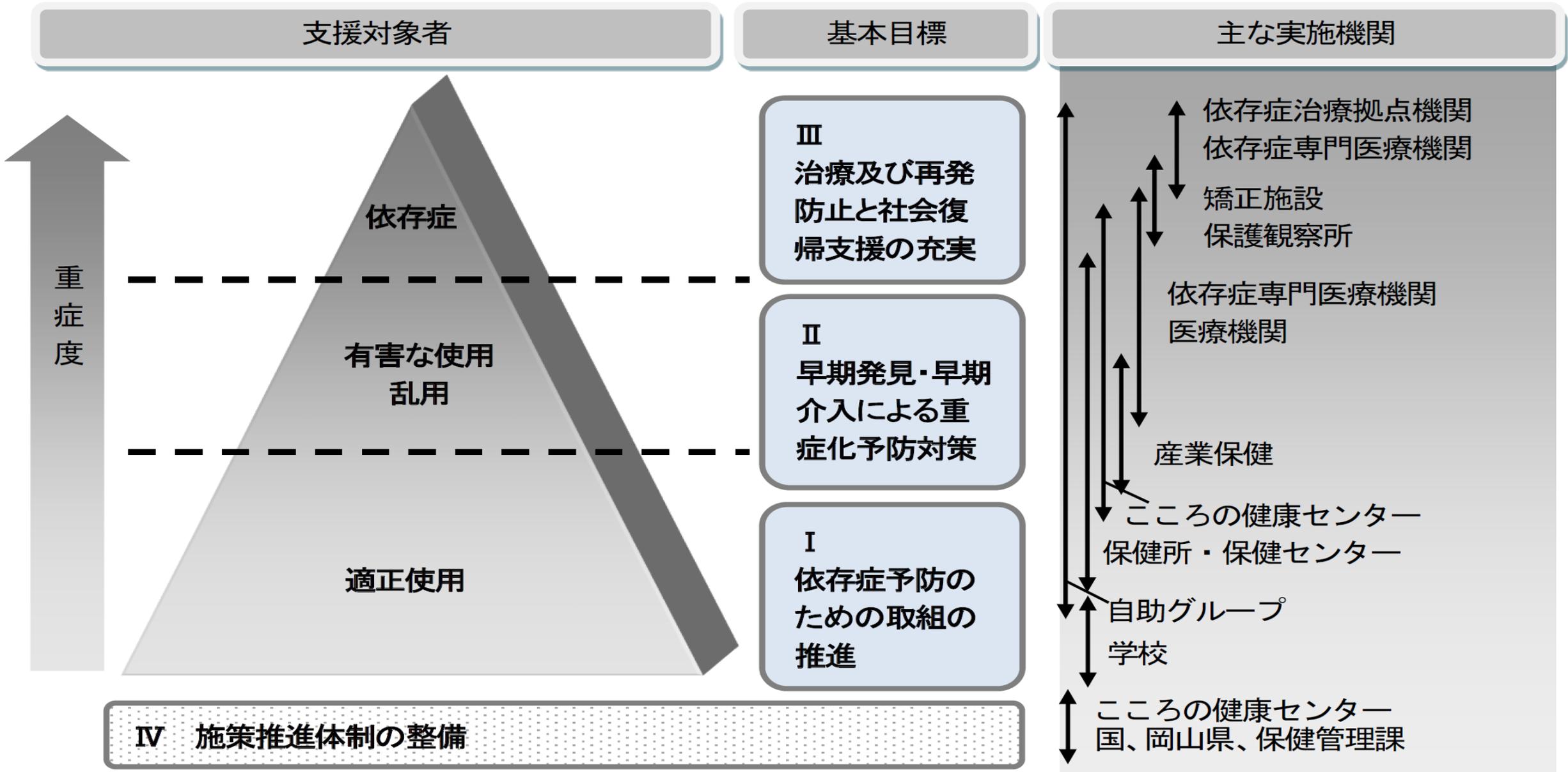
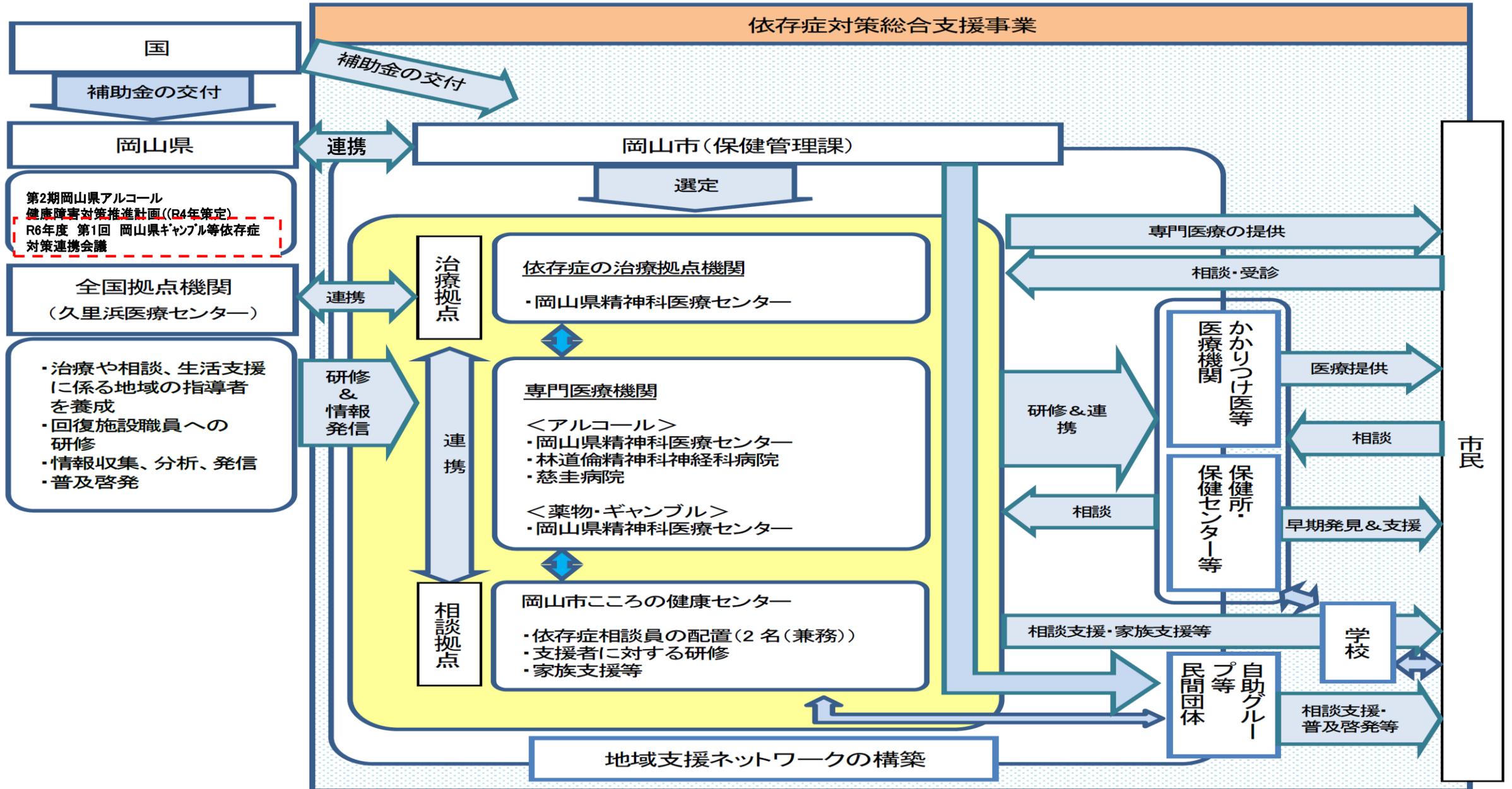


岡山市における依存症対策関連事業



出典：厚生労働省「みんなのメンタルヘルス」より改変



H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
岡山市こころの健康センターにおける依存症専門相談															
普及啓発・情報提供															
岡山市依存嗜癖関連問題審議会															
【AL】 おいしくお酒を飲むための教室															
【AL】 アルコール依存症支援者専門研修															
【AL】 岡山アルコール依存症早期支援ネットワーク会議															
【AL】 一般医療機関アルコール専門研修															
【AL】 事例に学び事例でつながるアルコール専門研修															
														【AL】 DPD	
												【薬】 薬物依存症基礎研修			
										【薬】 薬物依存症家族教室					
														【薬】 VBP	
											【ギ】 ギャンブル依存回復支援プログラム				
													【ギ】 ギャンブル依存症基礎研修		

〔標記の説明〕

【AL】：アルコール依存症関連事業

【薬】：薬物依存症関連事業

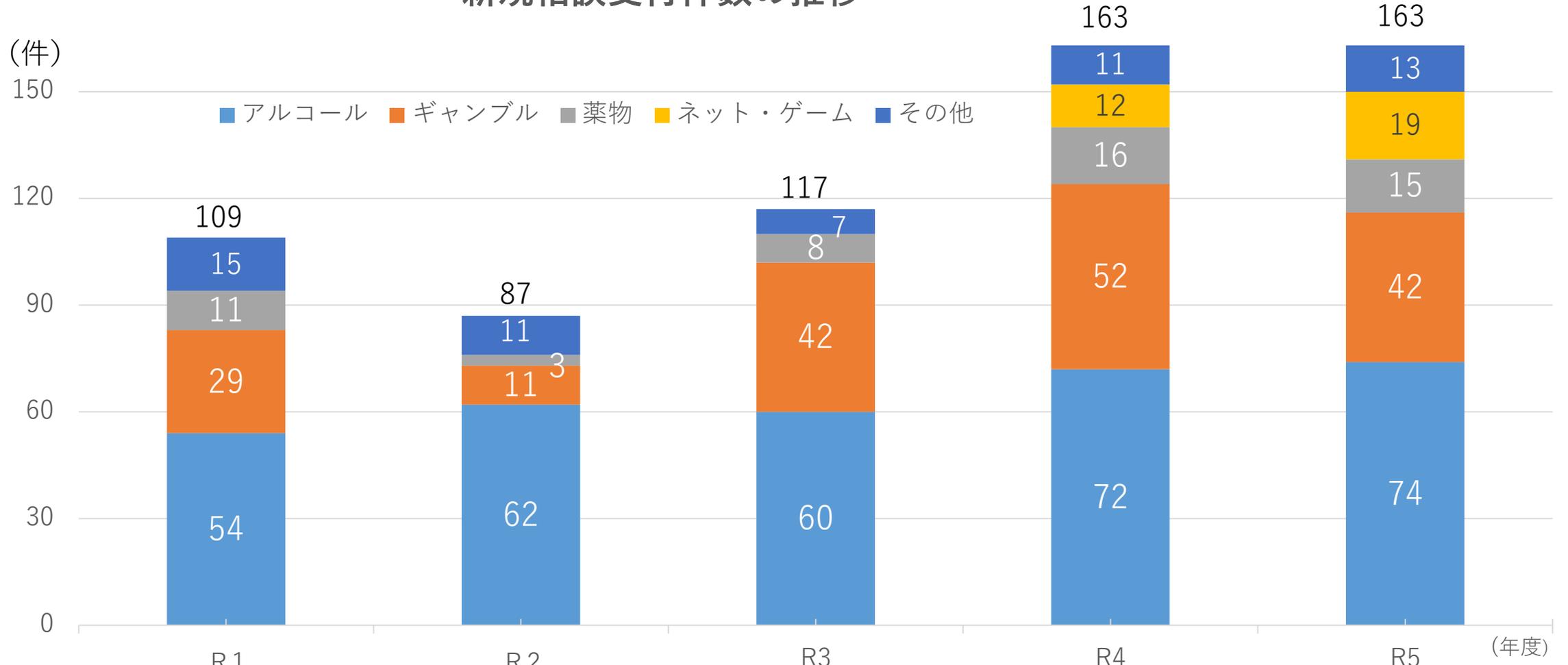
【ギ】：ギャンブル依存症関連事業

DPD (D to P with D)：オンラインによる専門医派遣

VBP (Voice Bridges Project)：保護観察対象となった薬物使用者に対する3年間追跡調査

・相談受付件数は、対前年度比ではR4年度は1.39倍増、R5年度は同数だった。種別ではギャンブルがやや減少し、ネット・ゲーム、その他の件数が増加傾向にある。
 ・主訴が医療機関の問い合わせに関するものでも、他機関の紹介だけに留まらず、個別相談へつなげるようにしている。

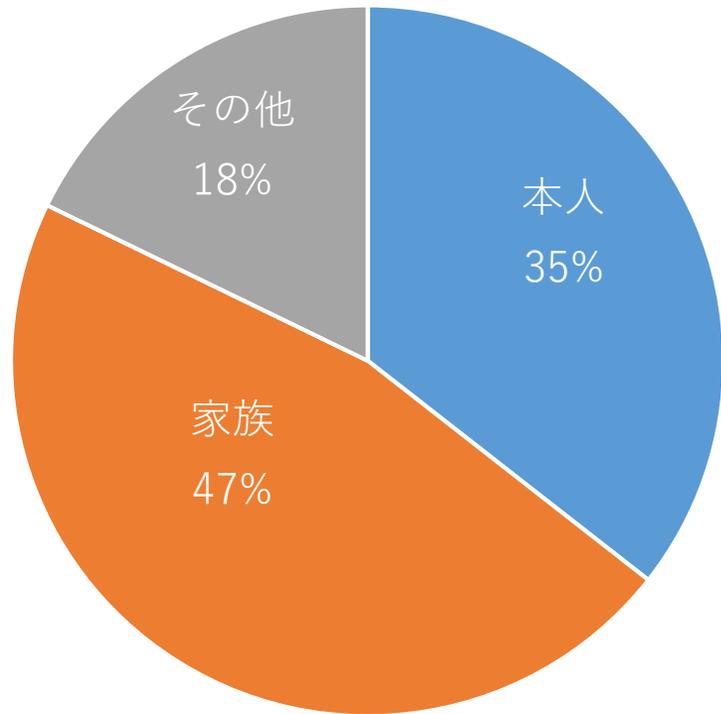
新規相談受付件数の推移



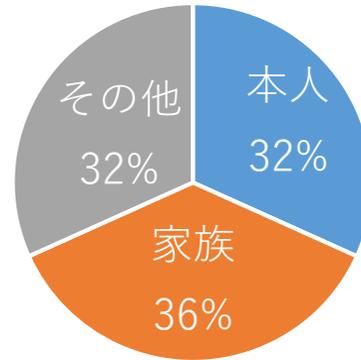
※ネット・ゲームはR4から新たに計上(R3まではその他に計上)

- ・ 依存症全体では約5割が家族相談となっている。
- ・ アルコールは、本人、家族、その他(総合病院、包括、保健センター等)の割合が同じ。
- ・ ギャンブルは本人、家族相談が中心。
- ・ 薬物は、家族、その他(保護観察所等)が中心。ネット・ゲームは、家族相談が中心。

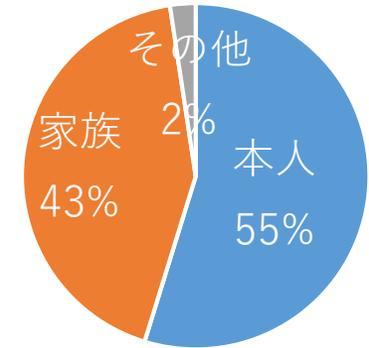
依存症全体(n = 163)



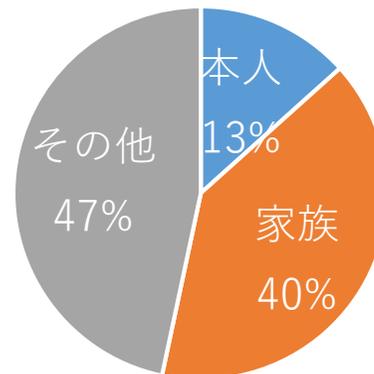
アルコール(n = 74)



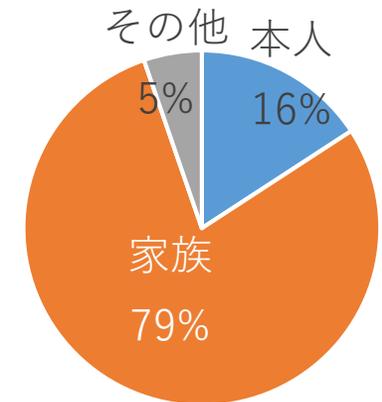
ギャンブル(n = 42)



薬物(n = 15)



ネット・ゲーム(n = 19)



- ・相談対象者の年代は、高校生以下が6割以上を占めている。
- ・相談内容は、日常生活に支障を来した状況の相談が多い。
- ・相談主訴はネット・ゲーム相談であっても、相談内容は幅広く、思春期相談担当者と依存症相談担当者が連携し、継続的な家族相談、本人相談を行うほか、関係機関の紹介等の対応を行っている。

相談対象者の年代内訳

(R5年度： n = 19人)

年 代	人 数	割合
就学未満	0 人	0 %
小 学 生	3 人	15.8%
中 学 生	5 人	26.3%
高 校 生	4 人	21.1%
大学生・成人等	6 人	31.6%
不 明	1 人	5.2%

【相談内容】

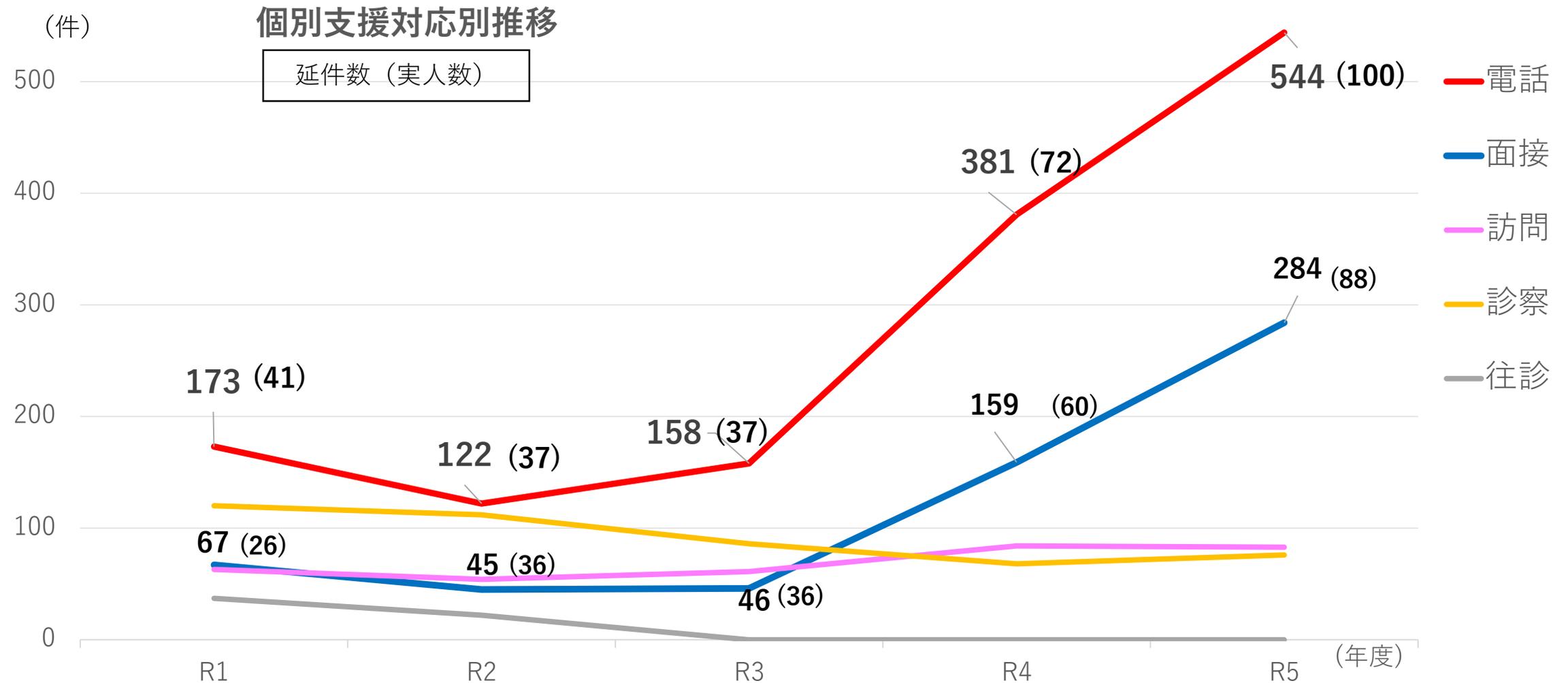
※日常生活に支障を来している

- ・不登校になっている
- ・生活が昼夜逆転している。
- ・宿題ができない。
- ・仕事に行けない。
- ・課金により多額の借金をする。
- ・怒って終わらせると暴力が出る。

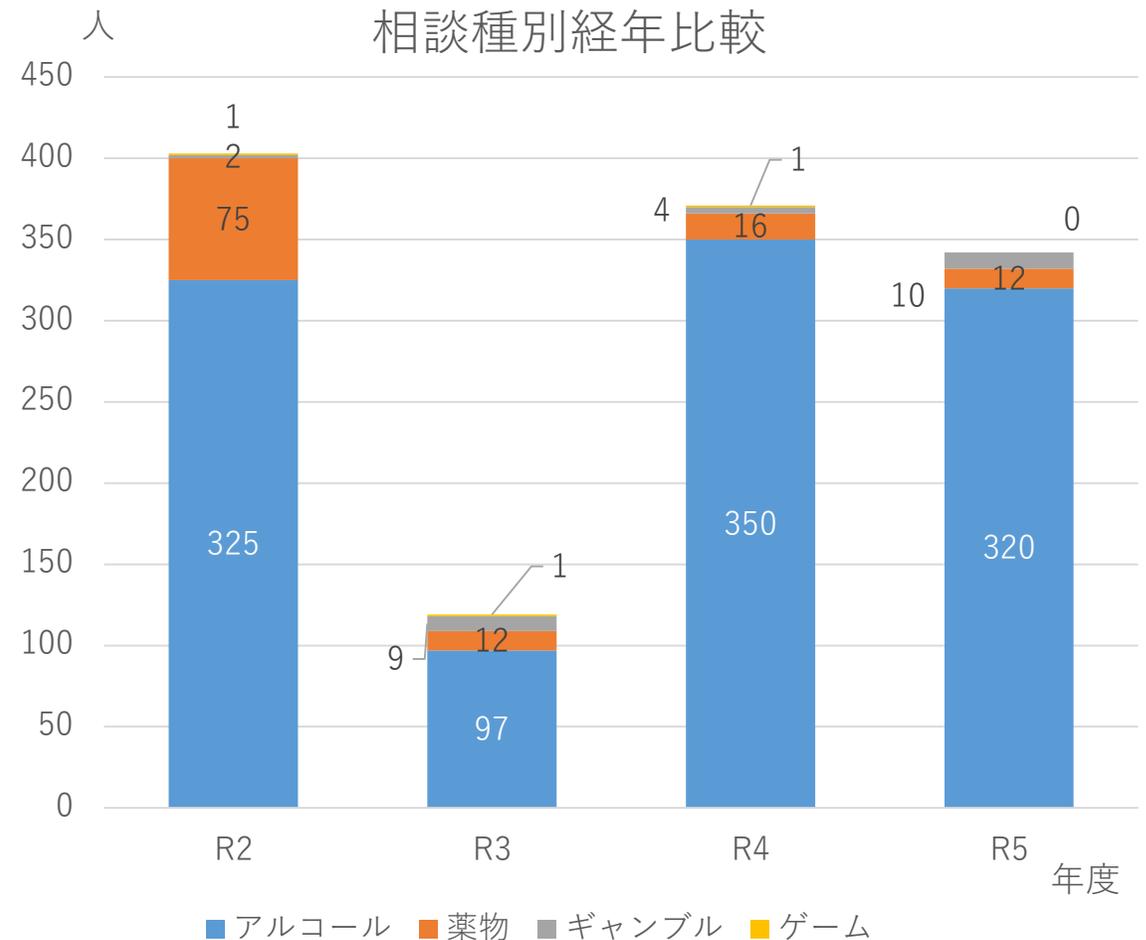
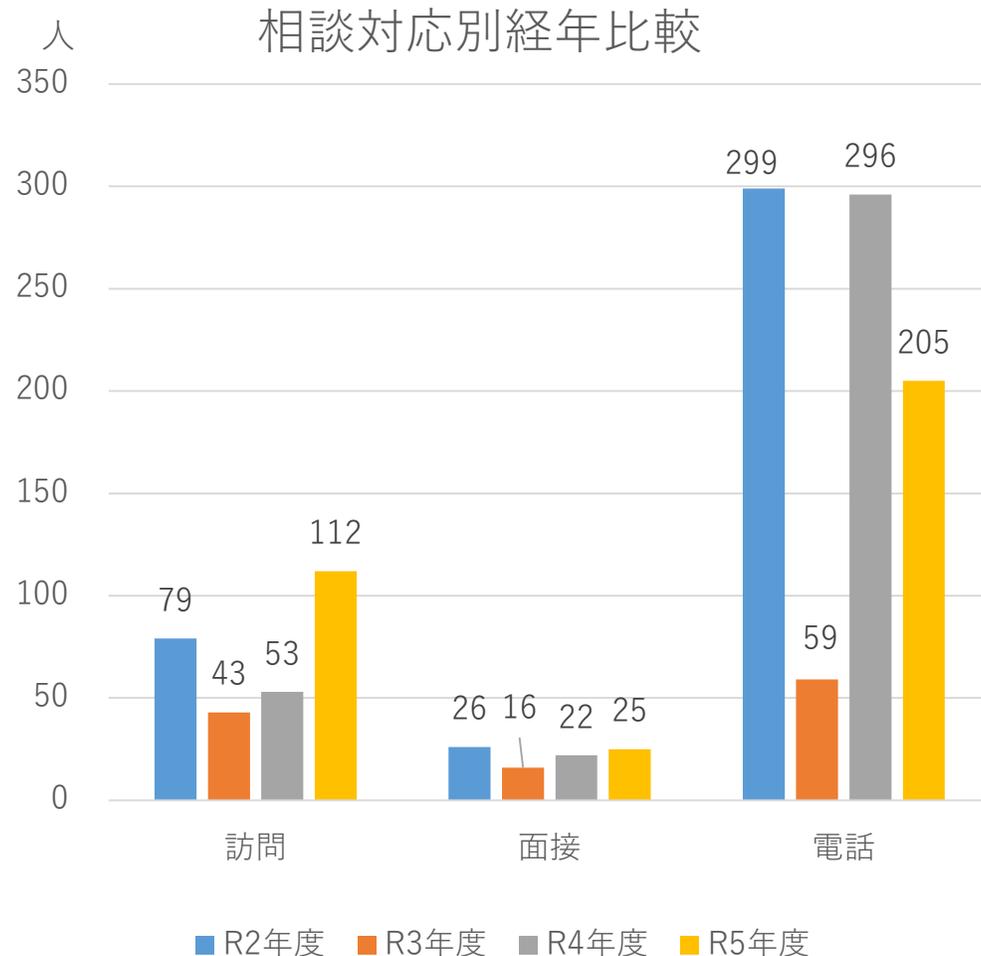
【対応】

- ・継続的な家族相談(思春期相談・依存症相談)
- ・継続的な本人相談(思春期相談・依存症相談)
- ・専門医療機関の紹介
- ・消費生活センターの紹介
- ・無料弁護士相談、司法書士相談の紹介 等

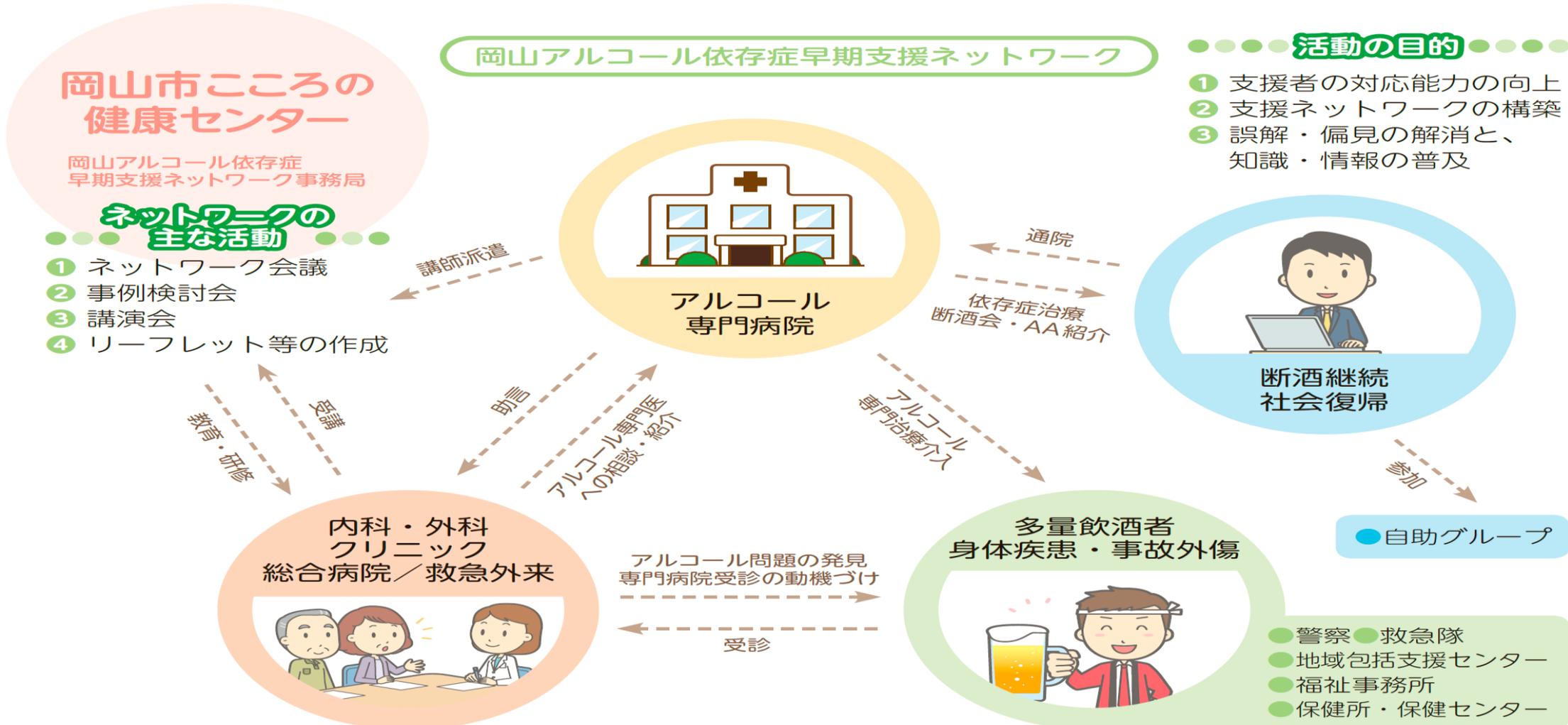
- ・ 新規相談受付件数の増加への対応と、相談が中断しやすい特徴を踏まえた丁寧なフォローアップ（面談キャンセル時はタイムリーに電話連絡し次回予約を取り直す等）をこころがけ、電話と面接件数が大幅に増加した。
- ・ 年々増加する相談へのタイムリーかつ丁寧な対応が求められるため、業務の調整や人材育成が必要と考える。



- ・相談総数は、R5年度はR4年度からやや減少しているが、訪問による相談支援は増加している。相談種別では、アルコールに関する相談が9割で、次いで薬物に関する相談となっている。
- ・相談時に適切に対応できるよう、引き続き研修等により対応力の向上に努める必要がある。



・ネットワーク会議は、R5年度に3回実施し、R6年度も3回実施予定で、いずれもオンラインを予定。
 ・ネットワーク会議のコアメンバーは、関連の研修会等での顔の見える関係を意識した声かけを行った結果、R6年度から新たに総合病院の救急科医師、医療ソーシャルワーカー、専門医療機関の作業療法士がメンバーに加わった。



地域医療連携の推進 (SBIRT:エスバート)

- ・R4年度に、ネットワークコアメンバーを中心にSBI (S:飲酒スクリーニング、BI:短時間介入)に焦点を当てた動画を作成。R5年度は、一般医療機関アルコール専門研修にて動画の解説を行い、研修会参加者の評価は上々だったが、ネットワークメンバーからは診察場面の動画がやや長いとの意見もあった。
- ・R6年度は、ワーキンググループでシナリオ修正、総合病院での院内研修を経て動画の一部を撮り直し、業者委託による編集のうえ、当センターYouTubeによる公開を行った。制作した動画は、R6.12.14の岡山県アルコール健康障害サポート医養成研修で活用されたほか、看護師のためのサブスク学習サービス(FitNs.フィットナス)でも紹介された。

動画1 2回目診察 (本人、内科医師)



- ・初診時に血液検査、腹部超音波検査を実施後、2回目診察で検査結果をフィードバック
- ・続いてAUDITでスクリーニングを実施し、その場で結果をフィードバック
- ・BIにUltra-BIパンフレットを活用し、診察時間の短縮を目指す

動画2 外来待合 (本人、看護師)



- ・看護師がUltra-BIパンフレットを活用しBIを実施
- ・短時間ではあるが、本人の希望を丁寧に聴き、それを基に本人と今後の目標を立てる
- ・飲酒記録のためのツールとして飲酒日記を提供する

動画3 3回目診察(本人、妻、内科医師)



- ・飲酒日記の結果をフィードバック、本人にBIの効果を実感してもらう
- ・場合によっては内科・かかりつけ医が専門医療機関紹介パンフレットを用いて専門医療機関を紹介する

SBIRT動画
二次元コード



- ・事例検討会は、R5年度以降、総合病院を会場とする持ち回り開催を再開している。
- ・一般医療機関アルコール専門研修は、R3年度はオンラインで、R4年度とR5年度はハイブリッドで開催。顔の見える形でのネットワーク構築を図るため、R6年度は会場開催とし、ディスカッションや参加者の交流が図れるなど成果があった。一方で、オンラインを中心に増加傾向にあった一般医の参加が減少した。申し込み後の欠席者が一定数いるため、今後はオンデマンド配信等も検討していく。

【事例に学び事例でつながるアルコール専門研修（事例検討会）：岡山赤十字病院にてハイブリッド開催】

日程：R6年10月2日(水)

検討事例：「重症の褥瘡や肺炎をそれぞれ発症した独居アルコール依存症者に多職種が係わった経過」

事例提供者：岡山赤十字病院 副院長 内科医 小橋 春彦 先生、岡山大学 保健管理センター 教授 精神科医 岡部 伸幸 先生

参加者数：66人

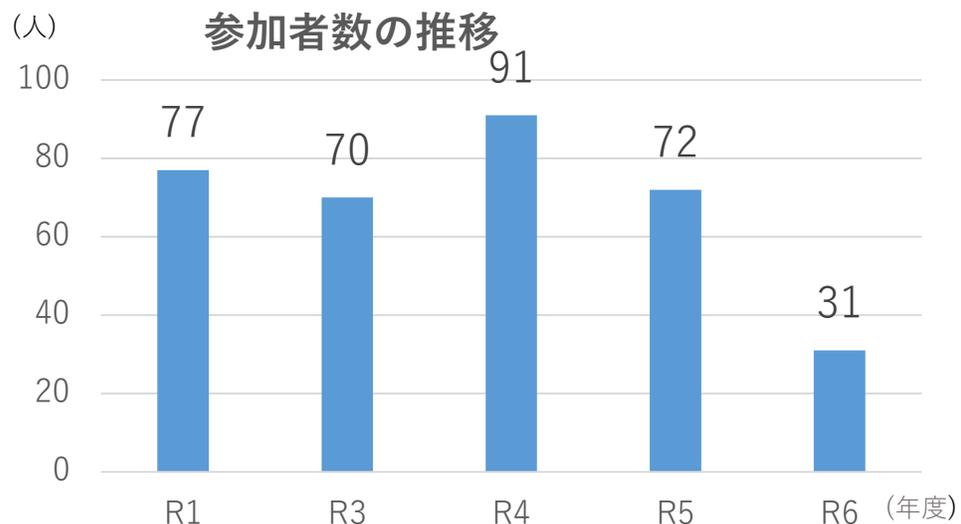
【一般医療機関アルコール専門研修（講演会）】

日程：R6年12月9日(月)

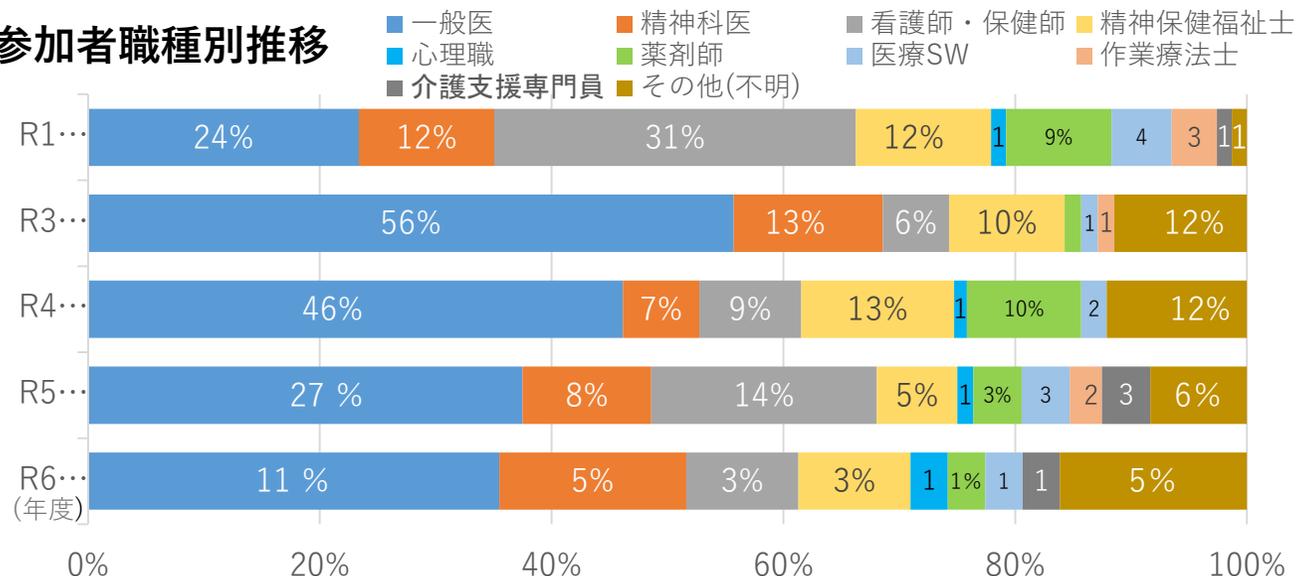
講演：「忙しくても無理なくできる 飲酒問題を抱える方へのアプローチ」

講師：沖縄リハビリテーション病院 TAPICアディクションセンター センター長 手塚 幸雄 先生

参加者数：31人

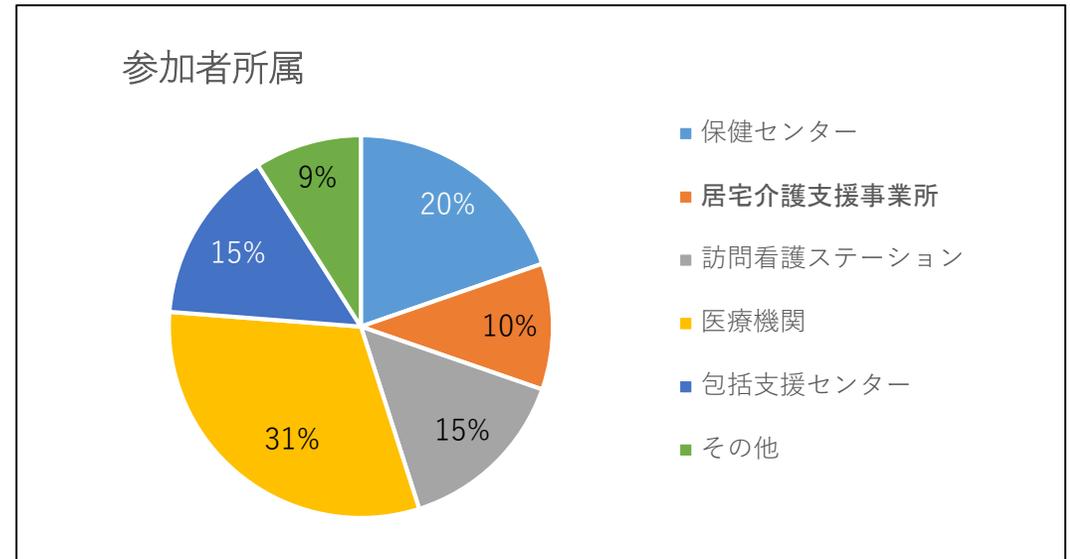
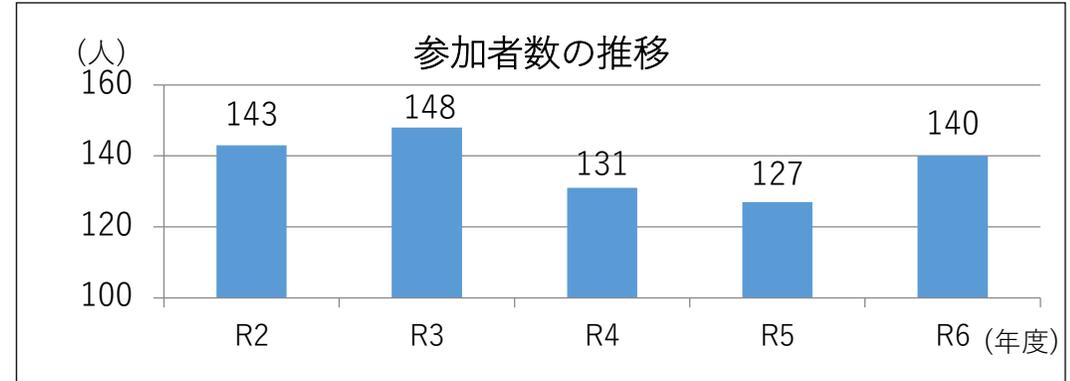


参加者職種別推移



- ・ R6年度の参加者数（延）は、やや増加している。参加者所属は、新たに専門医療機関にも研修を案内したことから、医療機関関連の参加者が増えた。昨年度までと同様に、高齢者福祉関連、行政機関等の関係者も多い。
- ・ 今年度は、毎回40人以上の参加申し込みがあり関心の高さは伺えるが、当日のキャンセル者も多かった。
- ・ 参加動機として、具体的な相談援助技術を身につけたいとする者が多く、第3回・第4回に実技を取り入れ、内容の充実をはかっている。

日時・場所	内容・講師	参加者数
第1回 R6年7月30日 ピュアリティまきび	講演：アルコール対策の動向と一次予防 講師：大阪精神医療センター 精神科医 入来 晃久 先生	28人
第2回 R6年8月26日 ピュアリティまきび	講演：アルコール依存症の理解と支援 講師：岡山県精神科医療センター 精神科医 宋 龍平 先生 体験発表：岡山県断酒新生会 当事者	46人
第3回 R6年11月21日 ピュアリティまきび	講演：アルコール依存症・乱用への援助 動機付け面接法「飲めない」けど「やめられない」迷っている人たちの援助するには 講師：市ヶ谷みぎわ心のクリニック 精神科医 後藤 恵 先生	34人
第4回 R6年12月20日 ピュアリティまきび	講演：依存症の家族支援CRAFT 講師：藍里病院 精神科医 吉田 精次 先生 体験発表：岡山県断酒新生会 家族会 家族	32人



- ・ 講演の中で参加者同士が話せる時間を設けていただけたことで、情報交換が図れ、講演の内容の理解がより深まった。
- ・ 当事者や家族の実体験に基づいた話を聞くことで、より理解が深まるとの感想から、体験発表を盛り込んだ内容としている。
- ・ ギャンブル依存基礎研修の参加者減少に対しては、アンケート結果の分析等によりニーズを把握しながら、支援者としての基礎知識や相談支援技術の獲得を目指した研修企画をしていく。

【薬物依存基礎研修】

日程：R6年10月11日（金）

参加者数：26人 会場：ピュアリティまきび

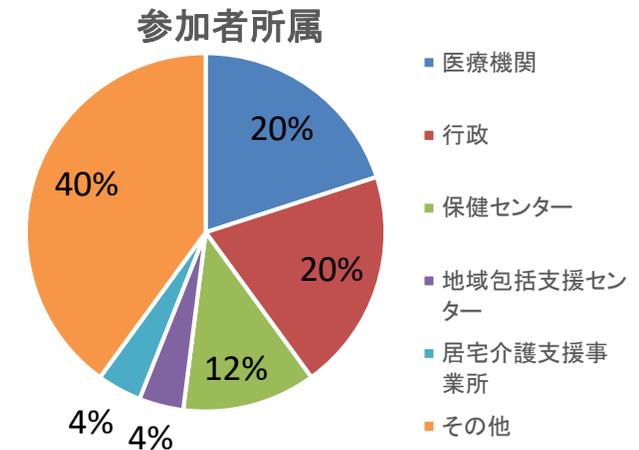
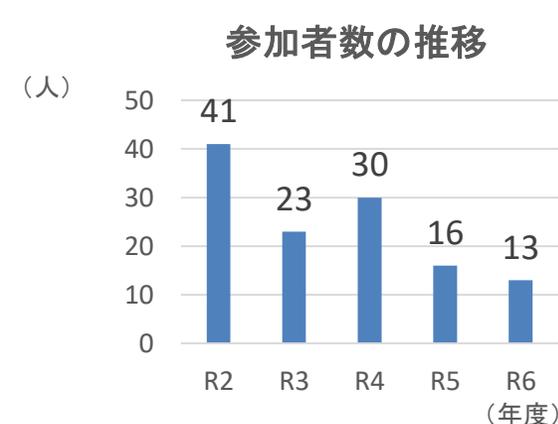
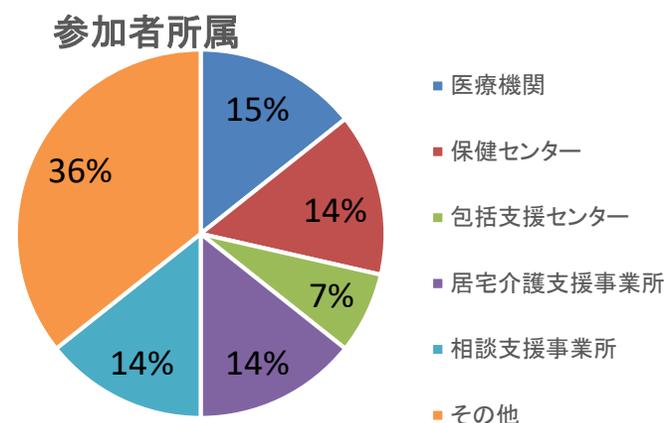
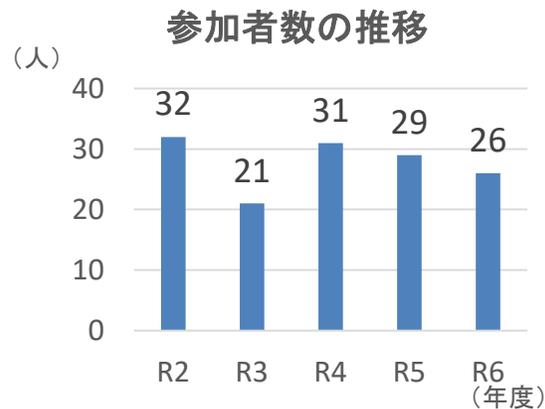
内容・講師
講演：「薬物依存症に対する理解を深めよう」 講師：岡山県精神科医療センター 精神科医 橋本 望 先生
ダルクの紹介と体験発表 体験発表「薬物依存症回復者の立場から」 講師：特定非営利活動法人岡山DARC 当事者
岡山家族会ぴあの紹介と体験発表 体験発表「薬物依存症家族の立場から」 講師：岡山家族会ぴあ 家族

【ギャンブル依存基礎研修】

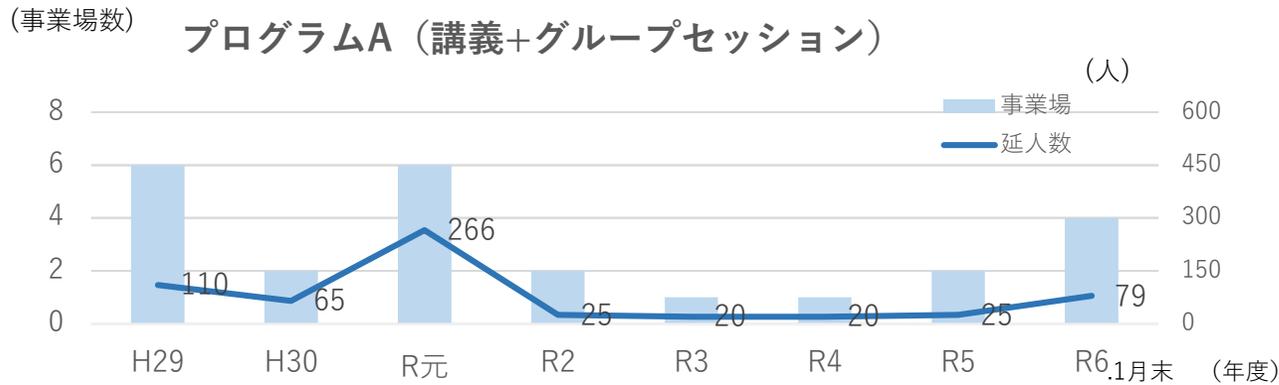
日程：R6年11月1日（金）

参加者数：13人 会場：ピュアリティまきび

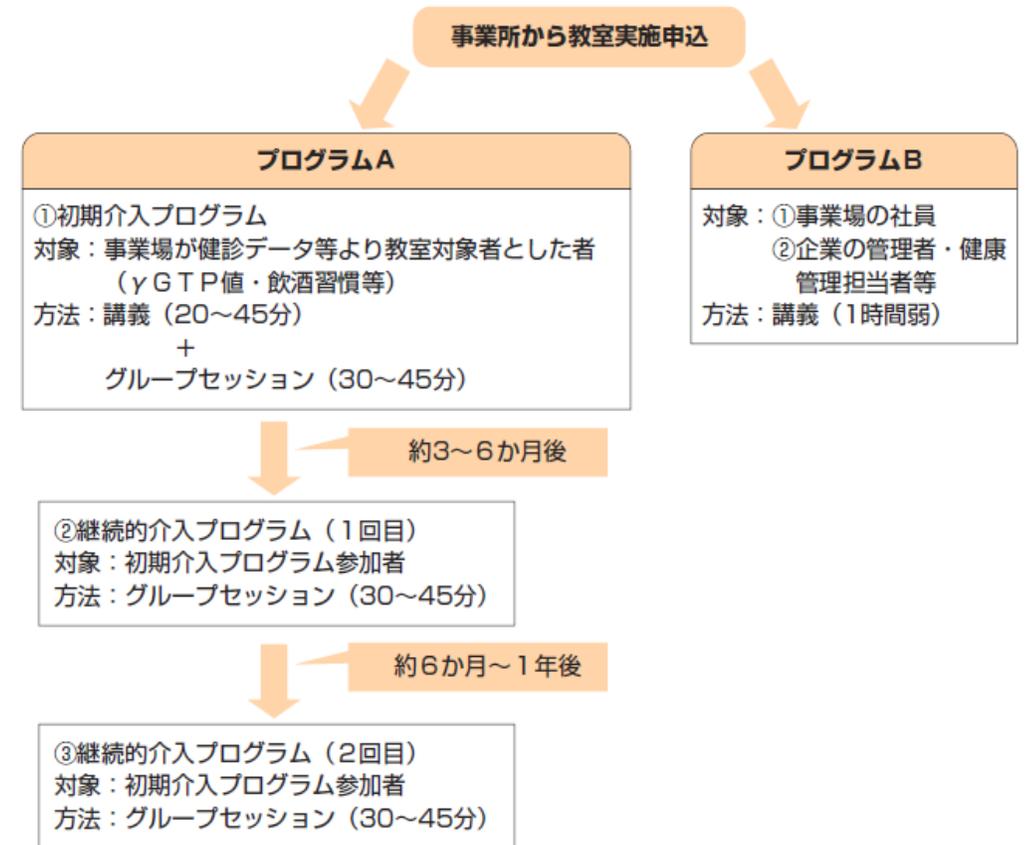
内容・講師
講演：「ギャンブル依存症の理解と向き合い方」 講師：岡山県精神科医療センター 精神科医 橋本 望 先生
GAの紹介と体験発表 体験発表「ギャンブル依存症回復者の立場から」 講師：GA岡山 当事者



- ・ R2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大に伴い実施事業場、プログラムA（講義+グループセッション）の開催は減少したが、R3年度からプログラムB（講義のみ）をオンライン形式の対応にしたことで、一定数の参加者を得ている。
- ・ R3年度以降のプログラムB（オンライン形式）開催が増えたことを受けて、プログラムAの行動変容に向けた要素をプログラムBに組み込む必要があると考え、R6年度はプログラムの改訂に着手している。
- ・ プログラムA（講義+グループセッション）の継続的介入プログラムについては、フォローアップの時期を逃さないよう、こちらからの積極的な声かけを行う方向。



【プログラムの内容と種類】



■主な改定内容

①講義内容(4部構成のバランス見直しや、「健康に配慮した飲酒ガイドライン情報」等を盛り込む等)の情報を更新する。

②プログラムB利用者の行動変容を促進するため、講義に「飲酒習慣の振り返りと行動変容の動機づけを促す内容(プログラムAのグループセッション要素)」を取り入れる。

■改定までの流れ



【第1回検討会意見要旨】

- ▶情報の一部追加・差替えに留まらず、検討委員の意見を基にワーキングにて改定案を作成する。
- ▶事業場で改定案を試行する過程を経ながら、改定を行うことが望ましい。

■改定作業状況

実施日	会議名	主な内容	メンバー
R6.10.31	第1回検討会	・プログラム改定目的や進め方の共有 ・構成とスライドに関する意見聴取 ・改定に向けた方向性の共有 等 ※別途ワーキングにて改定案を作成し、改定案を試行し、検討会を開催する方向となった。	医療機関、産業保健、企業関係者
R6.12.12	第1回検討会 ワーキング	(講義関係) ・講義内容(4部構成)の構成バランス検討 ・飲酒ガイドライン情報や依存症関係のスライド等の見直し (グループセッション関係) ・飲酒行動改善の動機づけ媒体(バランスシート)活用 等 ※各案を次回ワーキングに持ち寄り、再検討	医療関係者
R7.1.23	第2回検討会 ワーキング	(講義関係) ・日本人とお酒の関係スライド案の共有 ・アルコールの身体への影響等のスライドの見直し (グループセッション関係) ・飲み方に関するスライド内容の検討	医療関係者
調整中	第3回検討会 ワーキング	第2回検討会をふまえ、再検討の予定	医療関係者

- ・アルコール関連問題啓発週間(11月10日～16日)に普及啓発ポスターを作成し、市内事業場(852枚・562か所)等に配布。
- ・直近(R5.12月～R6.11月)の種別アクセス件数が最も多いのはギャンブルで、R4年度にホームページを開設したゲームが次いだ。
- ・R5年度に薬物のホームページを改訂(本人と家族に向けたメッセージ等を加えた)したが、アクセス件数は増加していない。引き続き、各種のホームページを定期的に見直していく。

◇アルコール関連問題啓発ポスター



お酒の悩み、聞かせてください。

今までの量や濃度では、物足りないわ

飲まないと気が晴れない

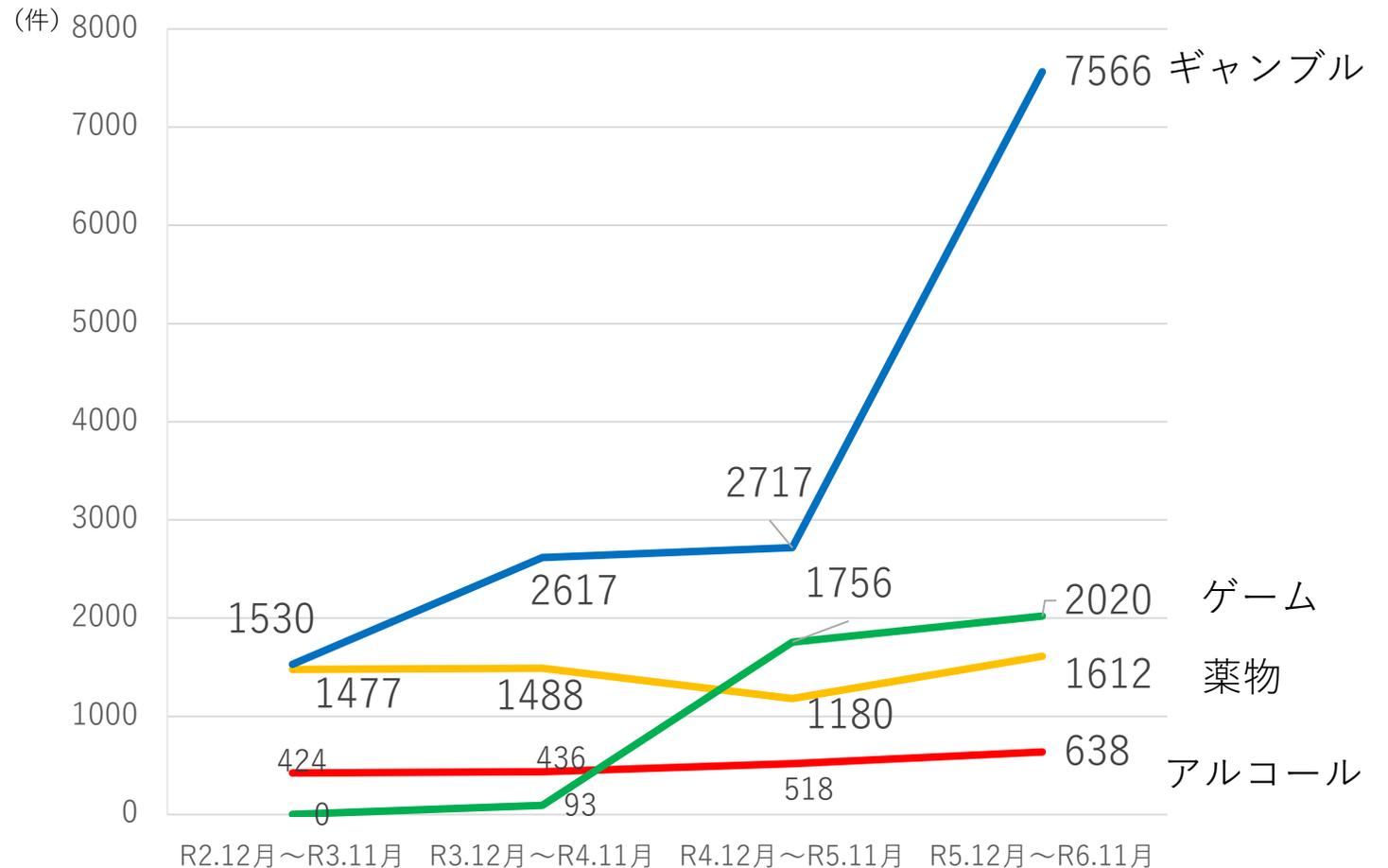
「飲まなればいい人なれば...」

一人で悩まず、ご家族の方もお気軽にご相談ください。
お酒との付き合い方を一緒に考えましょう。

岡山市こころの健康センター (岡山市依存症相談支援センター)
☎086-803-1274

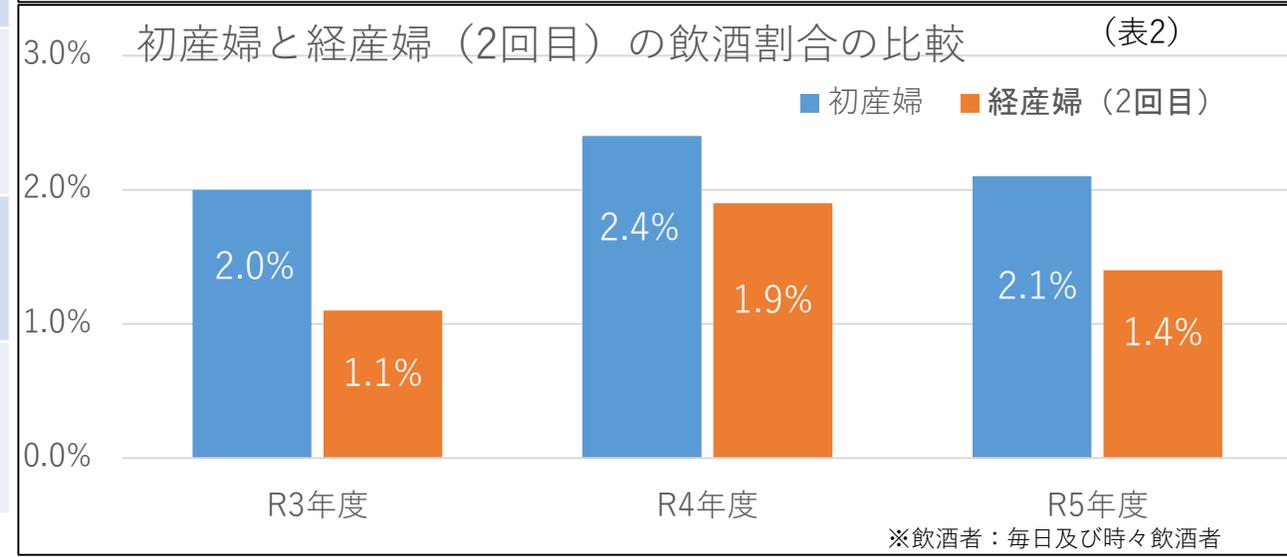
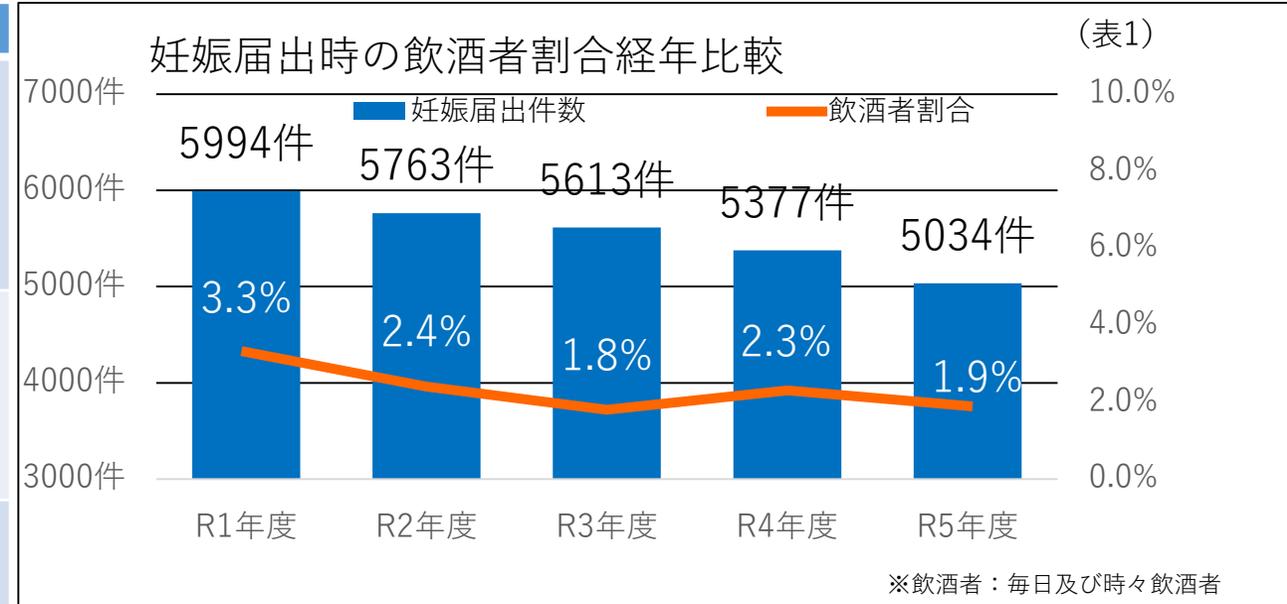
11月10日～16日 アルコール関連問題啓発週間
依存症のことを正しく知り、皆で支えあうことが大切です。

◇ホームページへのアクセス数の推移



- ・地域の団体等とも協働し、幅広い世代に対する啓発活動を行った。
- ・妊娠初期に情報収集し、飲酒している妊婦に対しおかやま産前産後相談ステーション等での面接相談指導を、今後も継続して実施する。
- ・初産婦より経産婦（2回目）の飲酒者の割合は低くなっている。

主な事業		取組内容
アルコール健康障害パネル展		アルコール関連問題啓発週間に合わせ、R6年11月12日に岡山市役所本庁市民ホールにて、断酒会の協力を得て啓発パネルの展示、啓発パンフレット・グッズを配布。併せて保健福祉会館情報コーナーではパンフレットを設置し啓発活動を実施。
妊娠届出時の普及啓発と相談指導		各保健センターに常設のおかやま産前産後相談ステーションにて、助産師等が飲酒習慣のある妊婦に対し妊娠届出時に、啓発パンフレットを配布するとともに、アルコールが体に与える影響について面接相談指導を実施。（表1、2）
地域における普及啓発	健康市民おかやま21での活動	地域で開催されるイベントで、保健センターが健康市民おかやま21推進委員と協働して啓発活動を実施。小学生や高校生に対しても実施。
	各地区での健康教育活動	各保健センターにて、一般市民に対してアルコールに関する健康教育を実施。R5年度は12か所944人に開催。北保健センター管内の商業施設で断酒会と一緒に啓発活動を実施。
	情報メディア等の活用	保健所が、R6年10月に、市民向けラジオ（レディオMOMO）を通じて、アルコールの影響や相談先について情報提供を実施。
「こころ健康マップ」による情報提供		依存症関連自助グループについて「アルコール」「薬物」「ギャンブル」の分野別に各会の開催情報等を掲載。保健センターでは随時配布をしており、R4年度改訂時には351機関に配布した。



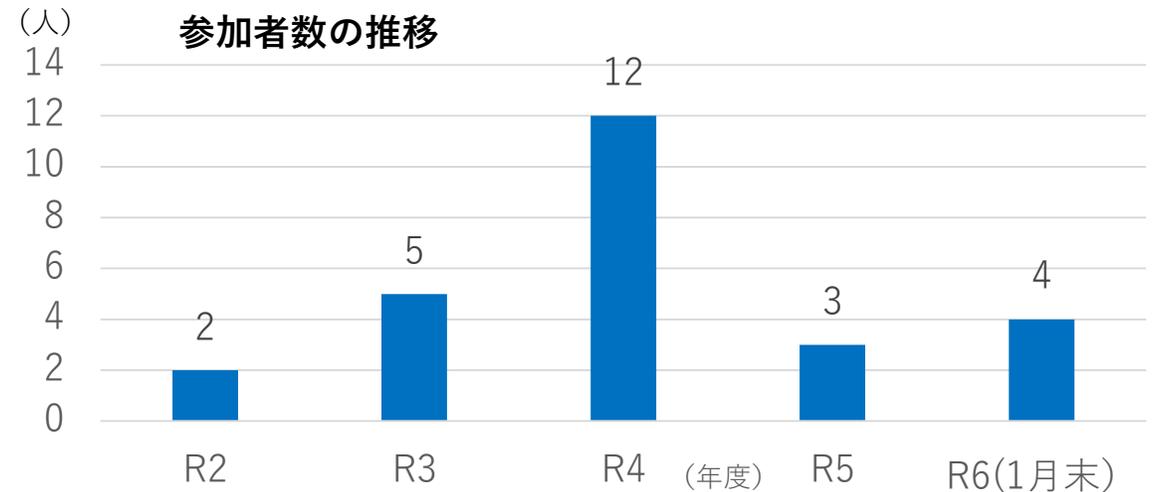
- ・ R3年度から2クール実施とし、R4年度の参加者数は12人に急増したが、R5年度からはR3年度並みに戻っている。
- ・ 一部のプログラム日程が合わない者や欠席者には、別時間で個別対応を行いながら、プログラムへの参加継続を図っている。
- ・ プログラム終了後は、参加者が孤立しないように、継続したフォローアップを行っている。
- ・ 第5回にはGA岡山の当事者から体験発表やGAの紹介をしてもらっている。
- ・ 集団プログラム日程に沿わない方には、回復支援プログラムを応用した個別面談を実施している。

	1クール	2クール	時間	内容
第1回	5月28日 (火)	10月22日 (火)	13:30~15:30	あなたのギャンブルについて整理してみましょう
第2回	6月25日 (火)	11月26日 (火)		引き金から再開にいたる道筋について
第3回	7月23日 (火)	12月24日 (火)		再発を防ぐために
第4回	8月27日 (火)	1月28日 (火)		私のみちしるべ
第5回	9月24日 (火)	2月25日 (火)		回復への道のり

プログラム参加経路：ホームページが大半

【参加者の声】

- ・ 改めて、ギャンブルと向き合うことができた。
- ・ プログラムを受けたことで状況が整理できた。

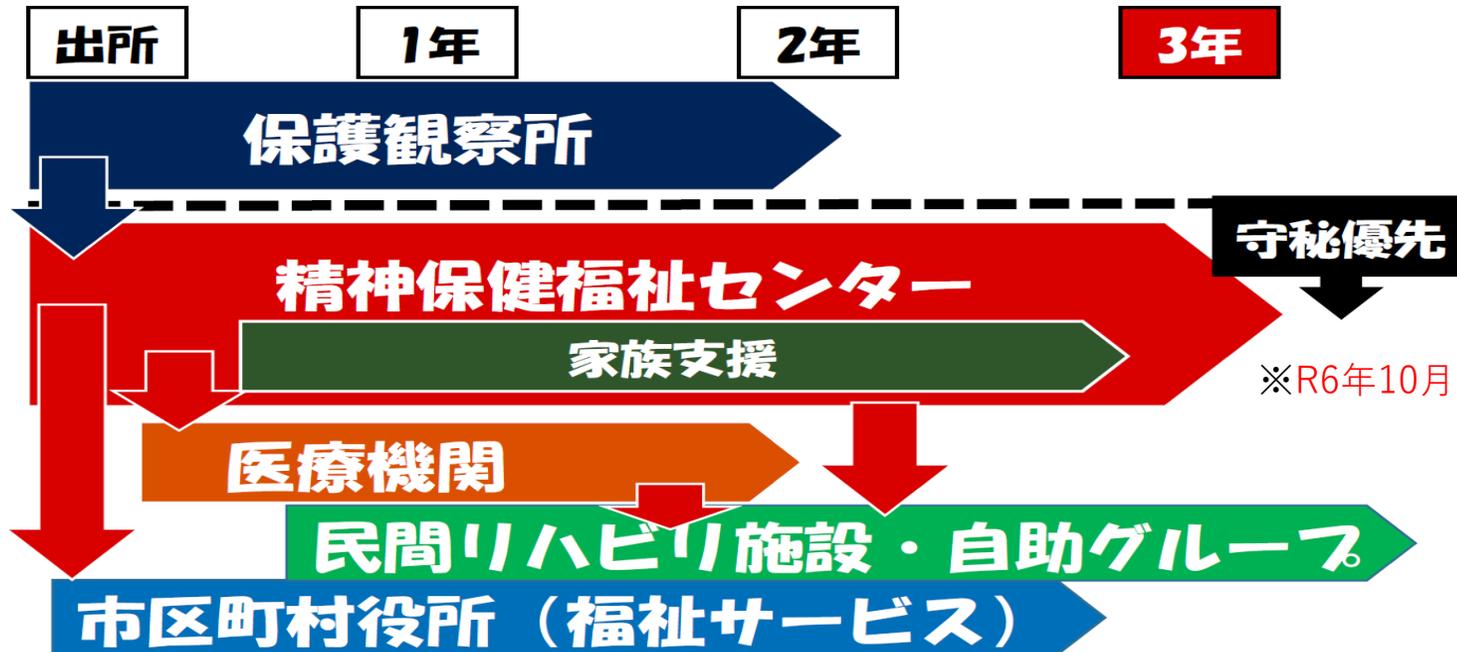


- ・ VBP (Voice Bridges Project) 申込者は、R4年度、R5年度、R6年度に1人ずつで、現継続支援者は2人。
- ・ R4年度から保護観察所主催の引き受け人懇談会に参加し、当センターの薬物依存症者支援に関する情報提供を行っている。
- ・ R4年度の「薬物依存からの回復のための岡山県地域支援連絡協議会」にて岡山刑務所から、釈放前受刑者への支援における機関連携相談があり、R5年度は岡山刑務所内で実施する集団プログラムに参加し、地域の相談先について情報提供した。
- ・ 薬物使用者に、当センターが仕事や金銭面など生活全般の相談ができることの周知が図られていないため、情報提供の機会を拡大したい。

2017年3月始動! 地域側からの「おせっかい」 Voice Bridges Project

「刑の一部執行猶予制度」施行後の地域支援(熊倉, 高野, 松本, 2017)

保護観察対象となった薬物使用者に対して3年間追跡調査を行う中で、薬物使用の確認や生活の困りごとを聞き取り、切れ目ない支援を目指す。



※R6年10月現在、28か所の精神保健福祉センターがVBP参加